



Y.Maeda

THE YUSHUN HIMBA (JAPANESE OAKS)

第85回 優駿牝馬 (オークス) (GI)

1着 賞150,000,000円 2着 60,000,000円 3着 38,000,000円 4着 23,000,000円 5着 15,000,000円
 付加賞 27,433,000円 7,838,000円 3,919,000円



レース映像は
 コチラをご覧ください
 いただけます。

牝、3歳、除未出走馬および未勝利馬
 負担重量 馬齢重量

2024.5.19 東京 曇・良 芝2400m (国際 種定)

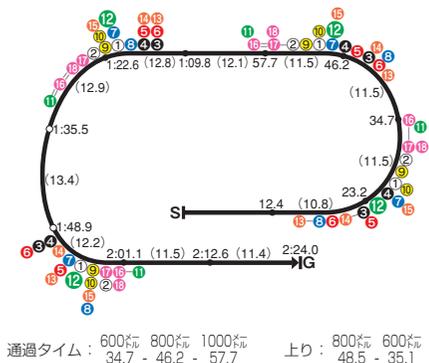
順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑫	チェルヴィニア	牝	3	55	C.ルメール	2:24.0	12-9-9-10	34.0	482(-6)	4.6②	木村哲也(美浦)	115
2	⑦	ステレンボッシュ	牝	3	55	戸崎圭太	1/2	9-9-9-12	34.0	458(-4)	2.3①	国枝 栄(美浦)	114
3	④	ライトバック	牝	3	55	坂井瑠星	1/4	15-14-13-15	34.1	476(+6)	7.9③	茶木太樹(栗東)	111
4	②	クイーンズウォーク	牝	3	55	川田将雅	クビ	5-5-5-4	34.7	522(+8)	11.5⑤	中内田充正(栗東)	111
5	⑩	ランスオブクイーン	牝	3	55	横山和生	ハナ	3-3-3-2	34.9	436(-4)	107.9⑬	奥村 豊(栗東)	111
6	⑬	スウィープフィート	牝	3	55	武 豊	1/2	18-18-16-12	34.5	466(+2)	10.3④	庄野靖志(栗東)	109
7	⑥	サンセットビュー	牝	3	55	三浦皇成	3/4	16-16-16-16	34.4	450(±0)	157.2⑮	新谷功一(栗東)	108
8	③	エセルフリーダ	牝	3	55	武藤 雅	1/4	13-14-16-16	34.5	468(+4)	78.0⑪	武藤善則(美浦)	106
9	⑨	アドマイヤベル	牝	3	55	横山武史	クビ	7-7-6-6	35.1	484(±0)	21.1⑩	加藤征弘(美浦)	105
10	⑧	ホーエリート	牝	3	55	原 優介	クビ	17-16-12-6	35.2	460(±0)	100.4⑫	田島俊明(美浦)	105
11	①	ラヴァンダ	牝	3	55	岩田望来	クビ	6-6-6-6	35.2	466(±0)	86.2⑨	中村直也(栗東)	105
12	⑤	コガネノソラ	牝	3	55	石川裕紀人	3/4	13-13-13-12	35.0	448(±0)	19.0⑦	菊沢隆徳(美浦)	104
13	⑮	サフィラ	牝	3	55	松山弘平	3/4	9-9-6-6	35.5	448(+16)	56.6⑩	池添 学(栗東)	103
14	⑪	ミアネーロ	牝	3	55	津村明秀	ハナ	7-7-9-10	35.3	476(+4)	25.2⑧	林 徹(美浦)	103
15	④	バレハ	牝	3	55	田辺裕信	アタマ	9-12-13-16	34.9	422(±0)	215.8⑰	新谷功一(栗東)	103
16	⑩	タゴノエルピーダ	牝	3	55	M.デムーロ	3	3-3-4-4	36.1	440(+4)	12.9⑥	斉藤崇史(栗東)	98
17	⑬	ショウナンマヌエラ	牝	3	55	岩田康誠	大差	1-2-2-2	41.3	466(-4)	216.3⑱	高野友和(栗東)	54
18	⑱	ウィントシユティレ	牝	3	55	北村宏司	大差	2-1-1-1	44.9	466(+4)	185.9⑱	古賀慎明(美浦)	26

単勝④460円(2[△]※) 複勝①140円(2[△]※) ⑦110円(1[△]※) ⑩190円(3[△]※) 枠連④-⑥640円(2[△]※)

馬連⑦-⑫590円(1[△]※) ワイド⑦-⑫260円(1[△]※) ⑫-⑭760円(10[△]※) ⑦-⑫380円(2[△]※)

馬単⑦-⑭1,300円(3[△]※) 3連複⑦-⑫-⑭1,690円(1[△]※) 3連単⑦-⑭⑭8,060円(9[△]※)

5重勝⑥⑬⑯⑱430,040円(988票) 対象競走: 京都10R/東京10R/新潟11R/京都11R/東京11R



アラカルト

- ・C.ルメール騎手はスターズオンアースで制した22年に続くオークス4勝目。JRA重賞は本年2勝目、通算149勝目
- ・木村哲也調教師はオークス初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算29勝目
- ・ハービンジャー産駒はJRA重賞通算41勝目
- ・馬番⑫の馬の勝利は初
- ・東京競馬場デビュー馬の勝利は21年ユーパーレーベンに続く通算16回目。優勝馬のデビュー競馬場別勝利数では最多
- ・クイーンズウォークの馬体重522[△]kgは07年ザレマと並ぶ本競出走走馬の最高馬体重タイ記録(成績広報に馬体重を掲載した71年以降)

チェルヴィニア *Cervinia*

牝 鹿毛 2021.2.3生
 北海道安平町 ノーザンファーム生産
 馬主・(有)サンデーレーシング 美浦・木村哲也厩舎
 馬名意味・マッターホルン山麓の集落の名より

ハッピートレイルズIRE系 F4-D

ハービンジャーGB Harbinger 鹿毛 2006	Dansili 黒鹿毛 1996	Danehill Hasili
	Penang Pearl 鹿毛 1996	Bering Guapa
チェッキーノ 栗毛 2013	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	ハッピーパス 鹿毛 1998	サンデーサイレンスUSA ハッピートレイルズIRE

5代までのインブリード：Northern Dancer S5×S5

INTERVIEW

山根健太郎 厩舎長(ノーザンファーム早来)

チェッキーノの仔で勝てたことも嬉しかったです

阪神JFへの出走が叶わなかった時はさすがにショックでしたが、その後、木村調教師や厩舎スタッフの皆さん、そしてノーザンファーム天栄のスタッフが大事に調整してくれたことが、この結果に繋がったのだと思います。育成厩舎長としては初めてのGI制覇となりますが、育成スタッフの頃に携わったチェッキーノの仔で勝てたことも嬉しかったです。

I.Terashima



6馬身差で圧勝した新潟の未勝利戦に続き、アルテミスSも完勝。2歳女王の最有力候補と目された昨秋の本馬だが、その後、左後肢に違和感を生じて阪神ジュベナイルフィリーズを回避直行で挑んだ桜花賞も思いがけない大敗(13着)を喫した。それでも周囲の評価は落ちず、2番人気に支持されたこの日は鮮やかに変身。レースのラスト2分が11秒5―11秒4、いわゆる加速ラップを一気に差し切る秀逸な内容で戴冠を果たした。

桜花賞でも先導役を務めたシヨウナンヌエラが、外めの枠を引いたこの日も一番のダッシュで飛び出して先手を奪取。折り合いを欠いたヴィントシ

父ハービンジャーGB

英9戦6勝(キングジョージVI世&クイーンエリザベスSG₁、ハードウィックSG₂、ゴードンSG₃、オーモンドSG₃)、11年から日本で供用
 [(代表産駒)ノームコア(香港CG₁、ヴィクトリアマイルG₁)、ディアドラ(秋華賞G₁、ナツソウS・英G₁)、プラストワンピース(有馬記念G₁)、チェルヴィニア(本馬)、モスカッチャン(エリザベス女王杯G₁)、ベルシアンナイト(マイルチャンピオンシップG₁)、ナミュール(マイルチャンピオンシップG₁)、ニシノデイジー(中山大障害J・G₁、東京スポーツ杯2歳SG_m、札幌2歳SG_m)、ドレッドノート(京大賞典G_m)、ローシャムパーク(オールカマーG_m)、ハービンマオ(関東オークスJ₂II)、他に重賞勝ち馬多数

母チェッキーノ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央7戦3勝(フローラSG_m、アネモネS_{op}、オークスG₁2着)

ノッキングポイント(20 牝父モーリス)中央10戦3勝(新潟記念G_m、毎日杯G_m | 2着) ㊟

チェルヴィニア 本馬(21 牝父ハービンジャーGB)中央5戦3勝(オークスG₁、アルテミスSG_m)獲得総賞金215,190,000円

アルレッキーノ(22 牝父ブリックスアンドモルタルUSA) ㊟

(23 牝父エビファネリア)

(24 牝父エフフォーリア)

祖母ハッピーパス

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央5勝(京都牝馬SG_m、札幌日刊スポーツ杯_{op}、阪神牝馬SG_m2着、フィリーズレビューG_m2着)、18年用途変更ラヴェルソナタ(08 騙父ファルブラヴIRE)中央4勝(新潟特別、本栖湖特別)パストフォリア(09 牝父シンボリクリスエスUSA)中央4勝(ユートピアS、山中湖特別)、サブライムアンセム ㊟(フィリーズレビューG_m)の母
 コディエーノ(10 牝父キングカメハメハ)中央3勝(東京スポーツ杯2歳SG_m、札幌2歳SG_m、朝日杯フューチャリティSG₁2着、皐月賞G₁3着)
 トレカルティスタ(11 騙父キングカメハメハ)中央4勝(奥尻特別)、障害 | 0勝

チェッキーノ(13 前出)

ヴァンランディ(16 牝父キングカメハメハ)中央4勝(元町S、ティエムオペ | ラオーC、夏木立賞、ディセンバーS・L2着)

ジネストラ(18 牝父ロードカナロア)中央4勝(幕張S、札幌道新スポーツ賞、アネモネS・L2着)

鋭い差し脚を冴え渡らせ檜の女王に

桜花賞で無傷の戴冠を逃した(つ着)2歳女王アスコピチエーノは距離適性を考慮してNHKマイルCへ進み、今年のオークスはステレンボツシュが挑む牝馬一冠制覇の成否が最大の焦点となった。単勝2・3倍と断然の支持を背負い、3年連続、史上18頭目の栄誉まであと一歩と迫った桜の女王。しかし勝利の女神は対抗候補と目されていた実力馬に微笑み、鋭い差し脚を冴え渡らせたチェルヴィニアが檜の女王に輝いた。

ユティレがこれに競りかけ、予想外のハイペースでレースは進む。3番手下の各馬は前の2頭をよそに自分のリズムを守って運び、チェルヴィニアのC・ルメル騎手は一団となった馬群の中団、ステレンボツシュの直後を追走。3番人気に支持された桜花賞の3着馬ライトバックは、後方でじっくりと末脚を温存した。

3コーナー手前で単騎、先頭に立ったヴィントシユティレは4コーナーで5馬身ほどのリードをつけたが、直線に向くとアツという間に後続が殺到。馬群を捌き、内から鋭く伸びたステレンボツシュが、先に仕掛けたランスオブクイーン、クイーンズウオークをかわして先頭に躍り出る。とはいえ、馬場の真ん中に持ち出され、加速にかかったチェルヴィニアはこれを凌駕する末脚を發揮。ステレンボツシュを抜き去ってゴールに飛び込んだ。